

はじめに

本書は、外国人留学生が研究に関する報告や発表を行う際に必要となる、基礎的な知識や考え方、日本語表現を学ぶために作成したものです。中級後半から上級レベルの日本語学習者を主な対象としています。プレゼンテーションに関する書物やインターネットによる情報は、世の中に溢れている時代ですが、外国人留学生が日本語で研究について発表することを扱った教材はまだ十分に提供されているとは言えません。本書の特色として、発表後の質疑応答にも丁寧に触れ、発表例の動画を取り入れる等、対話重視の姿勢を学べるような構成にしました。

今日、自分の考えを説明したり、何かを提案したりするとき、話して伝える「プレゼンテーション」という方法は必要不可欠なものになっています。それは、大学の中だけのことではなく、大学卒業後の職場などにおいても同様であり、あらゆる場面で求められる伝達手段となっています。

発表者がプレゼンテーションを行っている間、聞き手はその話を耳から聞き、スライドを目で見て、発表者と意思の疎通を図っています。発表者は、聞き手と向き合いながら、相手の耳と目を通し、自分が伝えたいことが正確に伝わるようにすることが大切です。

留学生の皆さんにとって、外国語である日本語を使い、専門に関することを人前で話すのは、非常に緊張することでしょう。しかし、会場にいる聞き手に自分が調べたことや研究した結果を理解してもらい、内容がもっと良くなるように、意見を交換したり、アドバイスがもらえたりしたら、うれしいですね。そのような有意義な時間になるように、日本語でのプレゼンテーションに関する基本的な構成やよく使われる日本語表現、相手に配慮した態度や話し方を学びましょう。

教材作成にあたっては、数年にわたって実際に学部や大学院で行われた研究発表会での発表を分析したり、発表した学生や指導する教員にインタビュー調査を行い、取り上げる内容を検討しました。作成した教材は、複数の他大学の日本語の授業でも試用をお願いし、改善を続けました。ご協力くださった先生方、学生の皆様に御礼を申し上げます。特に、宇都宮大学の鎌田美千子先生には教材の企画の段階から貴重な助言を数多くいただきました。また、動画の作成にあたっては、山形大学工学部の教員および学生の皆さんに多大なるご理解・ご協力をいただきました。お一人ずつお名前を出すことは控えますが、皆さまに心から感謝の意を表します。そして、出版にあたり、終始ご尽力くださいましたくろしお出版の市川麻里子さん、薮本祐子さんに深く感謝申し上げます。

本書が、これから大学でプレゼンテーションを行おうとする皆さんのお役に立てれば幸いです。

2020年7月

仁科 浩美

本書の一部は、JSPS 科研費 26370585 「口頭発表時における質疑応答コミュニケーション能力を高めるための教育方法の開発」(平成 26 年度～平成 29 年度、研究代表者：仁科浩美) の助成を受けた成果をもとにしたものです。

目次

はじめに	1	この本をお使いになる方へ	4
第①課	プレゼンテーションとは		6
	1. 「発表」と「プレゼンテーション」	2. 大学で行う発表の種類	
	3. 発表の3つのポイント		
第②課	学科紹介・研究紹介（1）	発表までのプロセスと構成を理解する	13
	1. 発表を行うまでのプロセス	2. 発表の構成	
第③課	学科紹介・研究紹介（2）	発表し、コメントし合う	23
	1. 発表者として、発表を行い、コメントをもらう		
	2. 聞き手として、コメントをする		
	Note 1	緊張とどう向き合う？……27	
第④課	研究発表（1）	序論	28
	1. 発表の導入で話すこと	2. 研究発表の場合	
	Note 2	発表で話す文の種類：3つの役割……34	
第⑤課	研究発表（2）	本論—研究方法—	35
	1. 研究の方法を説明する		
	Note 3	調査や実験項目を述べるとき 文から名詞句への変換……42	
第⑥課	研究発表（3）	本論—データが1つの場合の結果および考察—	43
	1. 得られた結果の提示	2. 考察：結果に対する解釈や見解の説明	
	Note 4	図表を説明するときによく用いられる表現……52	
第⑦課	研究発表（4）	本論—データが複数の場合の結果および考察—	53
	1. 複数の調査や実験から構成される研究について説明する		
	2. 複数の結果から結論を導き出す意味		
第⑧課	研究発表（5）	結論—全体のまとめ—	64
	1. 発表のまとめ	2. 反省点と今後の課題	3. 聞き手への感謝
	Note 5	時間の調整……71	

第⑨課	発表スライド（1）	簡潔に示すための日本語の工夫	72
	1. スライド資料	2. 文体	3. 箇条書きで見やすく
	4. スライドでよく使われる表現		
第⑩課	発表スライド（2）	情報の示し方	78
	1. 発表資料作成のツールおよびスライドのデザイン		
	2. 1枚のスライドに入れる情報	3. 項目の関係	
	4. スライドのレイアウト	5. 文字の大きさとフォント	
	6. 色使い	7. アニメーション	8. 絵や写真の使用と出典の表示
	9. 参考文献リスト	10. スライド番号	
第⑪課	質疑応答（1）	質問やコメントを受ける	86
	1. 質疑応答の目的と意義	2. 質問を受ける心構えと準備	3. 質疑応答の流れ
	4. 挙手する人の目的と丁寧度	5. 質問とコメント	6. 独特な前置き表現
	Note 6	実験系の発表における質問……92	
第⑫課	質疑応答（2）	回答する	93
	1. 回答のポイント	2. 質問を受けた際の状況	3. 状況に応じた回答
	Note 7	留学生が特に気をつけたいこと……100	
第⑬課	質疑応答（3）	質問者に誤解や解釈のずれがあると感じたとき	102
	1. 質問者との対話に必要な要素		
	2. 対人関係（上下関係や親しさなど）への配慮で考慮すべきこと		
	3. 質問者に対する基本的な姿勢		
	4. 対人関係に配慮した、誤解や解釈のずれへの対応		
第⑭課	ポスター発表		109
	1. 口頭発表とポスター発表	2. ポスター作成の際に気をつけること	
	3. ポスター発表の際に気をつけること		
第⑮課	発表の実践と振り返り		113
	1. 発表前の練習	2. 話し方	3. 非言語コミュニケーション
	4. 発表を振り返る		
付録	研究発表例		118

主な参考文献 128

この本をお使いになる方へ

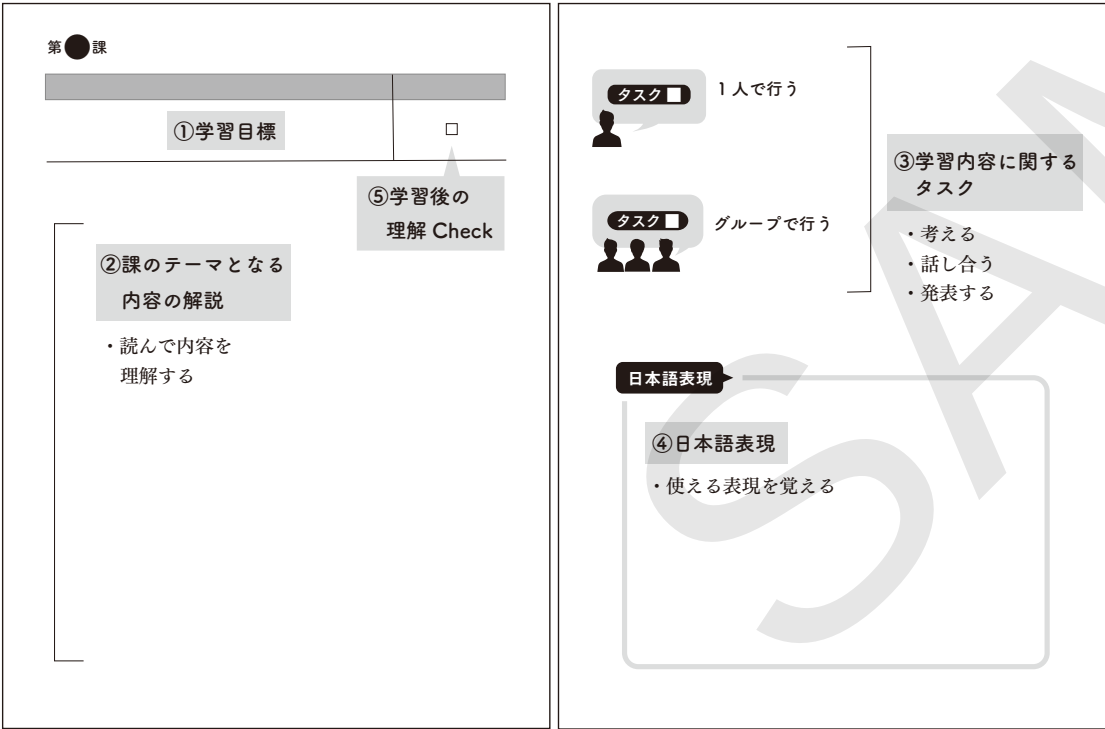
●全体の構成

本書は、15 課から構成されています。大きくは、以下のように5つの内容に分けることができます。

- I プレゼンテーションに関するウォーミングアップ (第1課～第3課)
 - II 研究発表 (第4課～第8課および第14課)
 - III 発表スライド (第9課～第10課)
 - IV 質疑応答 (第11課～第13課)
 - V 発表の実践と振り返り (第15課)
- このほかに、実際の研究発表をもとにした発表の一例を付録として掲載しています。

●課の構成

1つの課は、内容解説（解説を読んで理解する部分）と、実践タスク（考えたり、話し合ったり、発表する部分）、日本語表現（使える表現を覚える部分）の3つに分かれます。



※本書では、原則として日本語能力試験 N2 レベル相当以上の漢字にふりがなをつけました。

①学習目標

その課で何を学習するかを理解します。学習する項目を事前に理解しておきましょう。

②課のテーマとなる内容の解説

学習する内容についての解説を読みます。授業に出席する前に、読んでおくとその日の学習内容がわかりやすくなります。わからないところがあったら、授業のときに、積極的に質問しましょう。

③学習内容に関するタスク

②で学んだことを具体的に考えたり、話し合ったり、実際に発表したりします。自分1人で行う「個人タスク」と、クラスメートと行う「グループタスク」があります。自分と異なる意見に耳を傾けたり、成果物を見せ合い、他の人から自分にはない良い点を学びましょう。他の人と意見を交換する活動を通して、コミュニケーション能力を高めることも、この本の大きな目的の1つです。

④日本語表現

発表の際によく用いられる日本語表現を学習します。③のタスクを行った後、④で使える表現を覚える方法と、④を学習してから③を行う方法があります。

⑤学習後の理解 Check

この課の内容が理解できたかどうか、自分で振り返り、確認します。

・Note：発表を行うのに知っておくと役に立つ情報を7つ掲載してあります。

●本書の WEB サイト

次のアドレスから①②のデータを配信していますのでお使いください。

※一部、本書紙面と動画音声・字幕が異なる部分があります。
その場合は、本書の方を参考にして下さい。

https://www.9640.jp/books_842/

①   発表例の動画教材があることを示しています。実際の発表に向けて参考にしましょう。

②タスク資料 第10課タスク1(2) (p. 85) のスライド作成の際に使える図を用意しました。

●別冊：解答例

「タスク」の解答例を示しています。あくまで「例」であり、解答は1つとは限りません。



第6課 研究発表（3）

本論—データが1つの場合の結果および考察—

学習目標	→ 学習後に Check
調査や実験で得られた結果と考察を説明する際に必要な項目と内容を理解する。	☐
調査や実験の結果と考察を説明する際に用いられる日本語表現を覚える。	☐

◎結果および考察について説明する

調査や実験で得られた結果とその考察について述べる部分は、発表において最も重要な部分です。結果からどのような考察が導き出されたのかを説明します（図6-1）。

1. 得られた結果の提示

調査や実験を行ってどのような結果が得られたか、事実を客観的に述べるのが大切です。その際、結果を図や表にまとめて示すことが多いですが、聞き手はその図表を初めて見るので、簡単に見方を説明したほうがよいでしょう。

また、説明の際、図表にある全ての数値を読み上げる必要はありません。まず、全体的な傾向や特徴を伝え、明らかにしたい課題に関連した部分や注目したい点について説明すると理解しやすいでしょう。

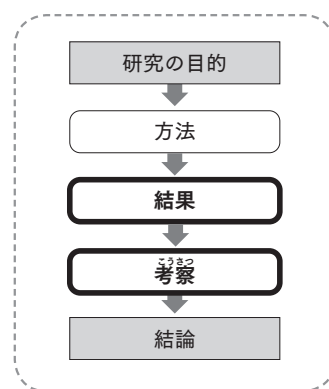


図6-1 結果と考察の位置づけのイメージ

2. 考察：結果に対する解釈や見解の説明

考察では、調査や実験から得られた数値やインタビューなどのデータをどのように受け止め、目的に対する答えをどのように考えたか（解釈や見解）を説明します。結果についての説明は誰が行ってもあまり大きな違いはありませんが、その解釈や見解は人によって異なることもあります。結果をどのように捉えたのか、自分の考えをわかりやすく伝えましょう。

考えを述べる際、それは全て客観的なデータに基づいたものでなければなりません。テレビやインターネットで見たり聞いたりしただけの根拠のない情報を加えてはいけません。最後に考察部分をまとめ、「序論・本論・結論」の結論部分へとつなげます。

**タスク 1**

次の例を参考に、(1) ～ (3) の結果および考察部分の説明を考えましょう。

例) 日本人男性の睡眠時間の特徴を知りたい。

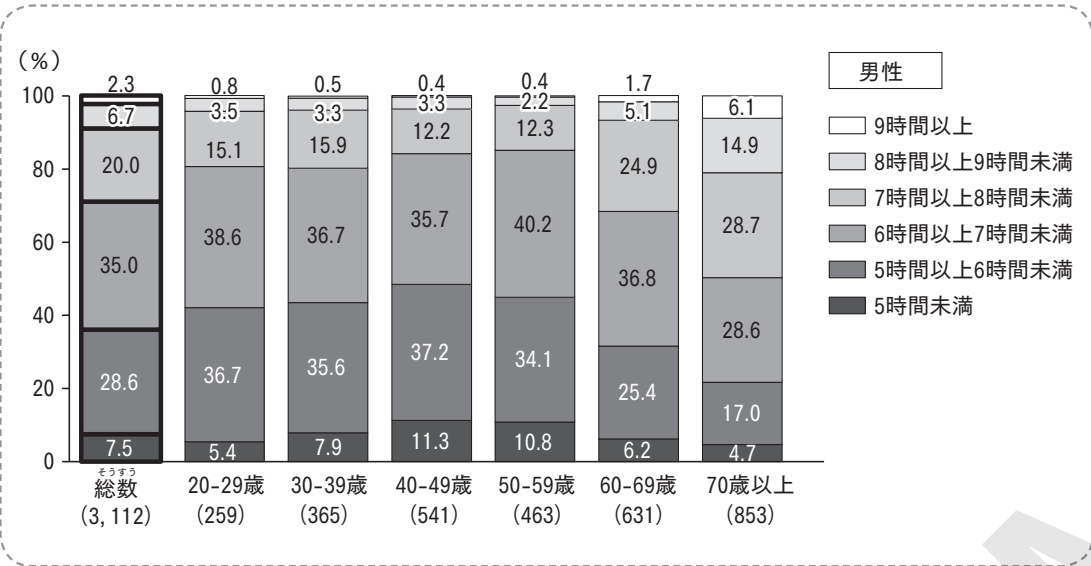
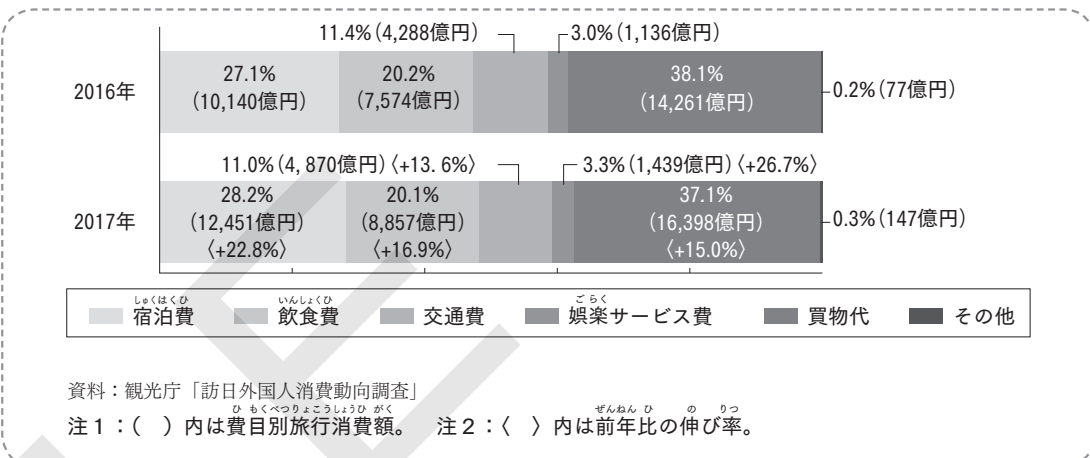


図 6-2 1 日の平均睡眠時間（男性、年代別）

厚生労働省「平成 29 年国民健康・栄養調査結果の概要」p. 25 <https://www.mhlw.go.jp/content/10904750/000351576.pdf> (2020 年 3 月 12 日閲覧)

結果 • 全体的な傾向 最も割合が多いのは、6 時間以上 7 時間未満の睡眠を取る人で 35 % を占めています。次に多いのは、5 時間以上 6 時間未満であり、この 2 つで 6 割を超えています。 • 注目すべき点 40 代と 50 代では、睡眠時間が 5 時間未満と回答した人がそれぞれ 11.3 %、10.8 % と、他の年代より多い結果になっています。一方で、60 代では 6 時間以上の睡眠を取る人が 68.5 %、70 代では 78.3 % と、長めの睡眠時間を取る人が多い傾向が見られます。	考察 この結果から、職場で課長や部長の役職に就く年代の 40 代、50 代は仕事が忙しいため、睡眠時間が短いのではないかとことがうかがえます。そして、定年を迎える 60 代以降は、仕事から解放され、十分な睡眠時間が確保できるため、睡眠時間も他の年代より長くなるのではないかと考えられます。 • まとめ 日本人男性全体では、6 時間以上 7 時間未満の睡眠を取る人が多いものの、役職に就く 40 代、50 代では睡眠時間を削って仕事を行っている可能性が考えられます。そして、定年を迎えた後は、睡眠時間を十分に取った生活を送っていると思われます。
--	---

(1) 外国人旅行者の日本でのお金の使い方を知りたい。



資料：観光庁「訪日外国人消費動向調査」
注 1：() 内は費目別旅行消費額。注 2：< > 内は前年比の伸び率。
図 6-3 費目別にみる訪日外国人旅行消費額
国土交通省観光庁「平成 30 年版 観光白書」p. 14 <http://www.mlit.go.jp/common/001260951.pdf> (2020 年 3 月 12 日閲覧)

結果 • 全体的な傾向 • 注目すべき点	考察 • まとめ
---	--------------------------------

(2) 日本の化石エネルギー依存度の特徴を明らかにしたい。

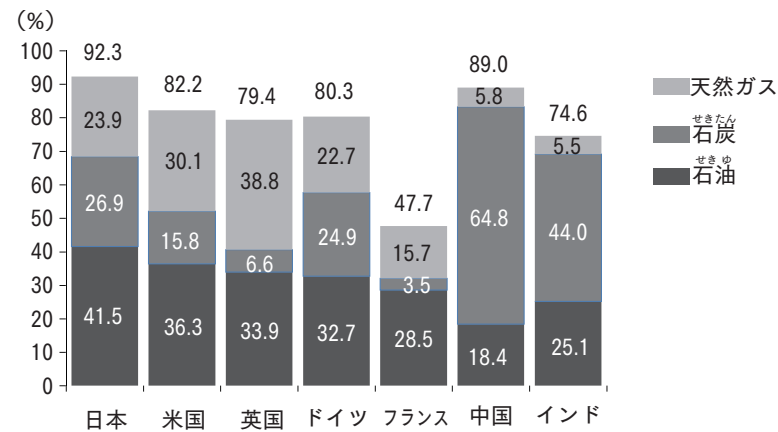


図 6-4 主要国の化石エネルギー依存度 (2016)
経済産業省資源エネルギー庁「平成 30 年度エネルギーに関する年次報告 (エネルギー白書 2019)」p. 109
<https://www.enecho.meti.go.jp/about/whitepaper/2019pdf/> (2020 年 3 月 12 日閲覧)

(3) 放送コンテンツの海外輸出の傾向を考えたい。

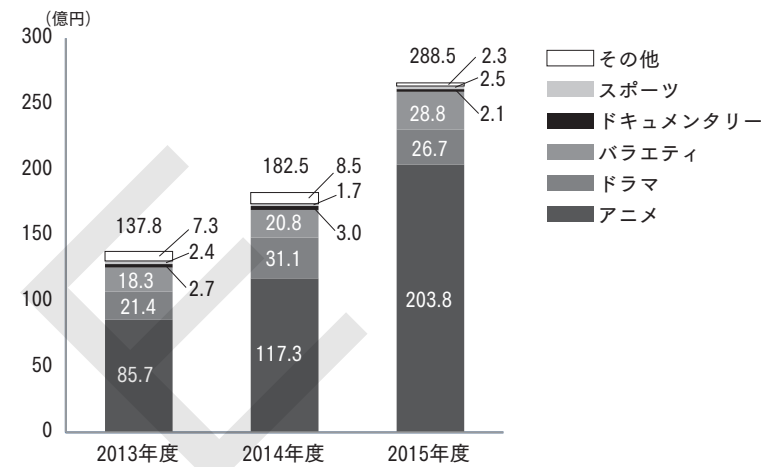


図 6-5 放送コンテンツの輸出額推移 (ジャンル別)
総務省情報通信政策研究所「放送コンテンツの海外展開に関する現状分析 (2015 年度)」p. 2
https://www.soumu.go.jp/main_content/000477810.pdf (2020 年 3 月 12 日閲覧)

結果 ・ 全体的な傾向 ・ 注目すべき点	考察 ・ まとめ
---	--------------------------------

結果 ・ 全体的な傾向 ・ 注目すべき点	考察 ・ まとめ
---	--------------------------------

タスク 2

タスク 1 (1) ~ (3) から 1 つ選び、発表しましょう。的確にわかりやすく説明できたか、聞き手にコメントをもらいましょう。



話した番号 ()	もらったコメント

日本語表現 7 図表の見方や結果について述べる

▶ 図表の見方を説明する

① {図 1 / 表 1 / こちら} は A を {表した / 示した} ものです。

- 例
- ・図 1 は大学生の 1 週間の読書量を表したものです。
 - ・こちらは 1 日の平均睡眠時間を示したものです。

② A について表したものが {図 1 / 表 1 / こちら} です。

- 例
- ・大学生の 1 週間の読書量について表したものが図 1 です。

③ 縦軸は A を表しています。横軸は B を表しています。

- 例
- ・縦軸は温度を表しています。横軸は時間を表しています。

④ 縦軸は A、横軸は B です。

- 例
- ・縦軸は温度、横軸は時間です。

▶ 結果を説明する

① {全体的に / (特定の部分) については}、(特徴の説明) という結果が得られました。

- 例
- ・全体的に、アニメが海外輸出に占める割合は高いという結果が得られました。
 - ・20 代女性については、価格を最も重視して選んでいるという結果が得られました。

② (種別) では、(結果の説明) という結果になりました。

- 例
- ・地域別では、A が 60.5 %、B が 23.8 %、C が 14.5 % という結果になりました。

③ (項目) については、(結果の説明) という {傾向 / 特徴} が見られました。

- 例
- ・旅行時の不満については、言語の面での不満が多いという傾向が見られました。
 - ・40 代については、睡眠時間が短い人が多いという特徴が見られました。

日本語表現 8 考察したことについて述べる

① {この / A という} 結果から、(判明内容) が
わかりました。
推測されます。
うかがえます。

- 例
- ・この結果から、20 代女性向けの商品開発には、低価格での商品提供が重要であることがわかりました。
 - ・価格を最も重視しているという結果から、この年代の収入が大きく関係していることが推測されます。
 - ・価格を最も重視しているという結果から、コストパフォーマンスを考え選んでいる様子がうかがえます。

② A の結果、(結果説明) しており、(判明内容) がわかります。

- 例
- ・調査の結果、留学生が知っている企業名は非常に限られており、持っている情報が十分でないことがわかります。
 - ・実験の結果、金属の断面には多数の穴が開いており、この方法により、空洞を持つ金属ができたことがわかります。

③ このような結果となった原因としては、A が考えられます。

- 例
- ・このような結果となった原因としては、20 代の給与はまだあまり高くないことが考えられます。

④ 原因の 1 つとしては、A という可能性が考えられます。

- 例
- ・原因の 1 つとしては、留学生はテレビやインターネットからしか企業の情報を得ていないという可能性が考えられます。

⑤(結果の状況)は、(原因)したためと考えられます。

例 ・ 金属の上のほうに穴が多く見られるのは、泡が浮き上がったためと考えられます。

日本語表現 9 考察をまとめる

① (研究方法) により、
A という結論が得られました。
A ということが明らかとなりました。
A を確認しました。

例 ・ アンケート調査により、年代により重視する観点が異なり、20 代女性には、価格に注目した商品の提供が最も重要であるという結論が得られました。
・ 2 つの資料を検討することにより、外国人観光客が必要としているのはインターネットからの情報であるということが明らかとなりました。
・ 今回の超音波によるマイクロバブルを用いた実験により、金属内に気泡が発生していることを確認しました。

② [このような点から、
これらのことから、
以上のことから、] (課題)は、(結論)と
[思われます。
考えられます。
言えます。]

例 ・ このような点から、売り上げを伸ばすには、年代に応じて商品をアピールする観点を変えていくことが必要であると思われます。
・ これらのことから、外国人観光客の受け入れ拡大については、多言語に対応したインターネット情報の充実が求められていると考えられます。
・ 以上のことから、気孔を持つ金属材料の製造には、マイクロバブルを用いた方法が有効であると言えます。

発表例
その 3



A さんは、外国人観光客が日本を訪れたとき、どのようなサービスが必要としているかについて、既に公表されている調査報告をもとに調べました。次は、その結果と考察を発表している部分です。

スライド
5

表 1 をご覧ください。これは日本政策投資銀行がアジア 8 地域の旅行者を対象に行った調査です。不満だった点について、初めて来日した人と複数回経験がある人とに分けて分析しています。

全体の結果としては、英語や母語が通じないことなど、言葉の面での不満が来日回数を問わず、多く見られます。地域別では、やはりシンガポールや香港などの人が英語が使えないことに対し、非常に不満に思っていることがわかります。このことから、インフォメーションセンターなどはもちろんのこと、日本人自身の英語力も高める必要があると言えるかもしれません。

言葉のほかに、旅行代金や、遊びに関する項目が続いています。

この調査から、外国人観光客が求めている情報・サービスには、観光客により若干の違いはあるものの、英語、そして、観光客の母語での対応や、楽しめる遊びの要素が強く必要とされていることが明らかとなりました。

3. 結果・考察 資料1 株式会社日本政策投資銀行(2014) 「アジア8地域・訪日外国人旅行者の意向調査」

表1 日本旅行で最も不満だった点

	全体	韓国		中国		台湾		香港		タイ		シンガポール		マレーシア		インドネシア	
		1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目	1回目	2回目
不満だった点・理由(複数回答)	846	1014	112	165	169	110	114	230	105	262	124	89	84	85	87	57	35
英語の通じ度	24%	28%	28%	24%	18%	15%	24%	33%	33%	39%	14%	18%	25%	34%	20%	22%	18%
母語の通じ度	24%	23%	21%	24%	30%	19%	25%	28%	22%	71%	68%	100%	97%	27%	23%	20%	11%
旅行代金	22%	23%	31%	28%	28%	15%	24%	20%	17%	28%	15%	11%	28%	25%	15%	24%	9%
エンブレムやショー体験	14%	18%	7%	8%	14%	13%	12%	18%	10%	14%	18%	33%	17%	15%	14%	11%	18%
ホテル・ツアー・バスやラウンジ、チャーターバス等(複数回答)	15%	14%	13%	11%	8%	8%	18%	15%	13%	13%	22%	21%	18%	8%	17%	8%	18%
携帯電話や通信機器の利便性(4G- LTE等の通信速度)	12%	14%	10%	12%	14%	12%	10%	15%	11%	15%	8%	8%	18%	14%	8%	4%	8%
ブランド品や宝飾品のショッピング	12%	12%	14%	12%	7%	4%	22%	18%	7%	11%	18%	14%	11%	16%	12%	8%	12%
外貨両替	11%	13%	7%	10%	17%	10%	18%	18%	10%	17%	8%	7%	10%	12%	7%	14%	8%
免税制度	10%	14%	5%	8%	16%	11%	17%	15%	11%	21%	8%	8%	7%	4%	8%	11%	7%
日本の人々と交流	12%	8%	18%	14%	24%	12%	14%	7%	12%	10%	8%	7%	7%	8%	5%	2%	8%
日本酒	12%	10%	12%	11%	8%	8%	8%	10%	11%	18%	11%	18%	11%	12%	8%	22%	22%

(p.14, 一部抜粋)

Note 4 図表を説明するときによく用いられる表現^{もち}

図表を説明するときによく用いられる表現を覚えましょう。

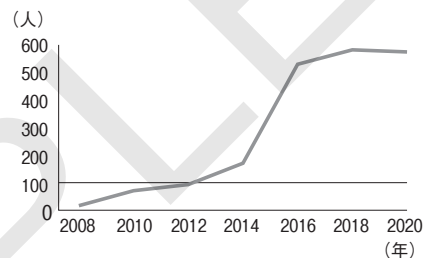
A 割合

- W が全体の約 4 割を占めています。
- W と X で過半数を占める結果となりました。



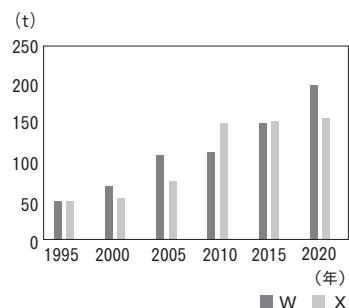
B 推移

- 2014 年から 2016 年に {急激な／著しい} の伸びを見せました。
- 2014 年から 2016 年に {急激に／著しく} 増加しました。(⇒減少しました)
- 2018 年以降 {横ばいで／一定で} 推移しています。
- 2016 年以降、大きな変化は見られません。
- ～は、2008 年以降 {増加する一方です／増加の一途をたどっています}。
- 2016 年に 500 人に達しました。



C 比較

- 2000 年に W は X を上回っています。(⇔下回っています)
- 2005 年に W は X の 2 倍の伸びを見せました。
- 2005 年に W は X よりも大きな伸びを見せました。
- 2015 年以降 X は W と {比べて／比較して}、大きな変化は見られません。



D 全体の傾向

- 宿泊費を重視する傾向が見られました。
- 全体的に 1 週間程度滞在する場合が多く見受けられました。